



導入事例

放射線治療計画同意書 ペーパーレス化への 意欲的な取り組み



日本大学病院 放射線科

課題 1

同意書の運用には医師はもちろん、医療スタッフへの作業負担が大きい

課題 2

同意書のペーパーレス化を実現するにあたり、環境構築の煩雑さと導入費用の大きさが難点となる

課題 3

紙での運用は常に紛失のリスクがつきまとう。また、迅速にカルテとの引き当てが必要な際にも時間を要する

DTU-1031/Medical

導入効果

- ・ 医師及び医療スタッフの作業負担の大幅な軽減を図ることが可能になりました
- ・ 現状保有の医療環境で機能強化を実現しました
- ・ 原本の紛失リスクを回避できるとともに、デジタル管理による検索性を高めています



日本大学病院 放射線科外来医長
福島祥子先生

日本大学病院

〒101-8309 東京都千代田区神田駿河台1-6

駿河台日本大学病院は、2014年10月1日より、「日本大学病院」として、お茶の水キャンパス内に新築移転して新たなスタートをきりました。

洗練された高度医療を提供するとともに、専門の枠を超えて協力し患者様に満足を、第一に公共的医療を行う大学病院です。

同意書ペーパーレス化に伴う液晶ペンタブレット導入の経緯

同氏は医療行為に伴う、多数の患者様との同意書取得作業と運用の手間を鑑み、医師や医療スタッフの負担の軽減を目指すために、放射線科で取得する放射線治療計画書に係る同意書の運用のペーパーレス化に着手されました。ペーパーレス化にあたり、専業業者やシステムベンダーとも打ち合わせを重ねたものの、システムの大規模改修が必要になるなど、簡易的なペーパーレス化は困難であると判断されました。その上で、既存環境を活かしながら、機能強化するための選択肢としてタブレット端末及び液晶ペンタブレット「DTU-1031/Medical」を検証されましたが、「導入の簡易性」「実務としての作業性」「横断的展開の可能性」の観点からワコムの「DTU-1031/Medical」をご採用いただきました。

1 医師及び医療スタッフの作業負荷の大幅な軽減を図ることが可能になりました。

院内業務では多くの場面で患者様の医療行為に係る同意書を取得する義務が発生いたします。原本・副本を2部印刷し、医師・患者様双方が記名の上、同意書用紙スキャン依頼書を作成の上、医療スタッフがデータ化するという煩雑な運用がされています。「DTU-1031/Medical」の導入により、運用フローの簡素化を可能にしました。医師にとっても医療スタッフにとっても医療行為以外の作業負荷が緩和されました。

2 現状保有の医療環境で機能強化を実現しました。

iPadなどの既存のタブレット端末ではネットワークを構成するためのワイヤレス化や、病院の既存医療環境とのすり合わせや一元化の必要など、導入障壁が高いのが実情です。その中で、「DTU-1031/Medical」であれば既存医療環境の機能強化という位置付けで、パソコンと接続するだけですぐに今までの運用フローを変えることなく導入できました。

3 原本の紛失リスクを回避できるとともに、デジタル管理による検索性を高めています

院内は電子カルテで運用されているものの、医療行為に係る同意書については、ほとんどの病院では紙で管理されています。医療監査時や医療過誤裁判などの際にはカルテを併せて提出するため、迅速な紐付けや紛失のリスクを回避する必要があります。「DTU-1031/Medical」の導入により、放射線治療計画同意書においては、「DTU-1031/Medical」上で署名されたデータを原本として部門サーバーに保管することにより、上記の問題点の解消をいたしました。

現在、放射線治療計画における同意書のペーパーレス化の有用性は確認できましたが、あくまで放射線治療部門管理システムのみでの運用にとどまっているので、上位システムである電子カルテ連動を検討していくことが重要だと認識しています。しかし、導入にはまだまだ事例の増加や医療行為に係る同意書の効果効力の明確化などの壁があると考えています。

